

つながり創出！やまぐち探究人材育成事業

Re:framing Camp yama guchi

リフキャン
やまぐち

～地域と出会い、他者と語らい、山口とわたしを見つめる夏休み～

開催日程：2026年（令和8年）8月9日（日）～8月11日（火・祝）[2泊3日]

※7月中旬にオンラインでの「事前顔合わせ会」があります

開催場所：山口県内（山口市周辺 / 宿泊：YMfg維新セミナーパーク）

定員：15人程度 / 参加費：無料

主催：山口県 / 企画・運営：一般社団法人motibase



プログラムの趣旨・目的・活動の特徴

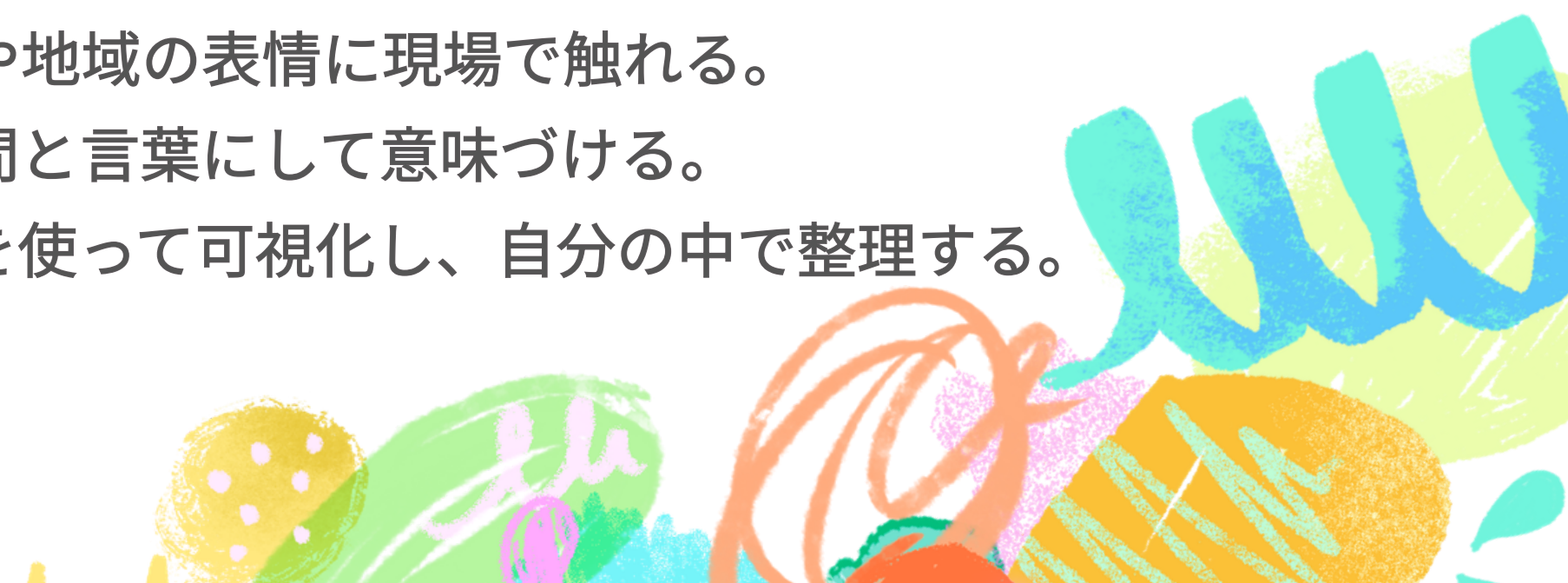
趣旨

山口のヒト・モノ・コトに直接触れ、そこで感じた自分の心の動きを言葉や形にしていく、
2泊3日の合宿型探究プログラムです。

目的

単に地域の情報を学ぶだけではありません。「地域理解」「他者理解」「自己理解」をぐるぐると行き来させながら、
山口での出会いや体験を通して、自分の興味・関心やこれからの山口とのつながりを見つめ直すことを目指します。

活動の特徴

- ①体験する： 資料を見るだけでは分からない、暮らしの実感や地域の表情に現場で触れる。
 - ②対話する： フィールドワークで得た気づきや違和感を、仲間と言葉にして意味づける。
 - ③表現する： 自分の内面にある想いや問いを、アートの手法を使って可視化し、自分の中で整理する。
- 

プログラムで行うこと・身につく力

街に出て地域を観察するフィールドワーク、同世代や地域で活動する社会人との対話、アートを取り入れた表現ワークを行います。体験や対話を通して、自分なりの問いを見つけ、多様な価値観や生き方に触れながら、自分自身の関心やこれからの山口とのつながりを見つめ直します。

[体験を深める3つのメインワーク]

1.写真日記

チェキを片手に3日間を過ごします。自分の心が動いた風景や違和感をパシャリと記録し、日記帳に「なぜ心が動いたのか」を言葉で添えて書くことで内省を深めます。

2.描画ワーク

言葉だけでは捉えきれない、自分の状態や感情を、線・色・形・余白を使って抽象的または具体的な表現を用いながら自由に表現します。

3.未来やまぐちジャーナル

〇年後の山口にタイムスリップした「未来の記者」になりきって、地域の課題を乗り越えた望ましい未来の街のニュースを執筆・発表します。



★アート経験や専門知識がなくても大丈夫！絵の上手さや芸術のセンスを競うものではありません。言葉にならない感覚を整理するための探究の道具としてアートを使うので、絵が苦手な方でも安心して参加できます。



スケジュール

Day0
(7月中旬)

事前顔合わせ会（オンライン）
メンバー同士の自己紹介やマインドセット、プログラム説明を行います。
（後日、日程調整を行い、開催日を決定します。）

Day1
(8月9日)

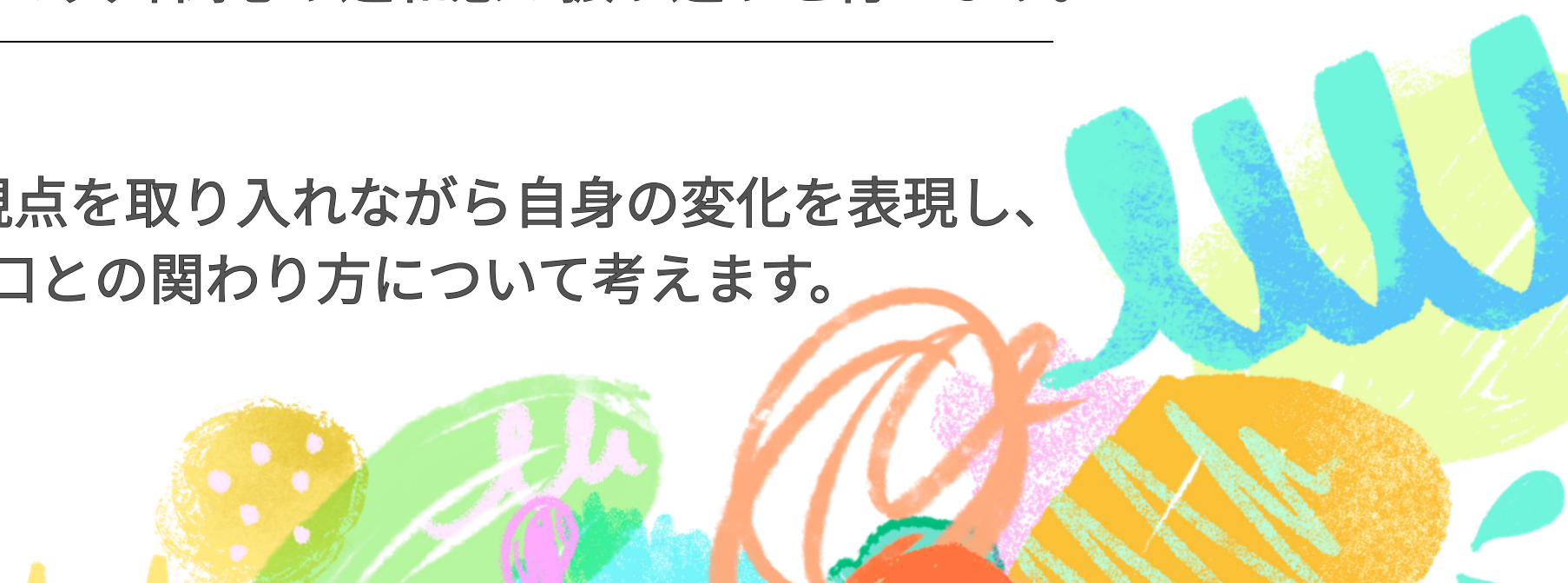
出会いと自己探求
オリエンテーションの後、「わたし」と「ふるさと」の関わりを振り返るワークや地域で活動する社会人も交えた交流会、今感じていることを表す描画ワークを行います。

Day2
(8月10日)

フィールドワークと振り返り
山口情報芸術センター（YCAM）の見学とアートに関する講義・対話を行います。
その後、山口市中心商店街でのフィールドワークを行い、気づきを共有します。夜はDay1・Day2の体験を通じて見えてきた自分の興味関心や違和感の振り返りを行います。

Day3
(8月11日)

「わたし」と「ふるさと」の未来を考える
3日間の全行程を振り返り、参加者同士の視点を取り入れながら自身の変化を表現し、自分が大切にしたいことや、これからの山口との関わり方について考えます。



フィールドワークの舞台

文化や住民の暮らしが息づく現場に五感で触れることで、資料やインターネットの情報だけでは分からない「まちのリアルな表情」を自分自身の感覚で捉えます。



山口情報芸術センター [YCAM]

(出典：山口情報芸術センター公式HP)

メディア・テクノロジーを用いた新しい表現を世界に発信する複合文化施設です。普段は見られない舞台裏を巡るバックヤードツアーや特別講義を通じ、アートやデザインの視点を借りて「社会や地域を新たな視点でどう見るか」という、探究のヒントを学びます。



山口市中心商店街

(出典：山口街中公式サイト)

歴史と生活が交差する、地元の人々に長年親しまれてきたアーケード街です。単なる観光ではなく、ガイドの視点も借りながら、お店の風景、行き交う人々の動き、空き店舗などに目を向け、まちに隠された魅力や課題を「自分ごと」として観察・発見します。

講師・ファシリテーター紹介

独自の視点や専門性を活かし幅広くチャレンジしている“カッコいい大人”がDay1ではファシリテーター、Day2では講師として参加し、皆さんのワークや対話をサポートします。

講師



菅沼 聖さん

山口情報芸術センター[YCAM]学びと共創課課長。メディアアートの知見を生かした共創事業を推進。東京藝術大学 芸術未来研究場 特任准教授（2024年～）を兼任。



廣田 祐也さん

2002年山口市生まれ。主にフリーランスとして、共創的なアートプロジェクトの企画や制作などを行う。また、山口発のメディアアート作品『スポーツタイムマシン』を運営する一般社団法人の代表理事も務める。

ファシリテーター



中野 祥子さん

山口大学では留学生に対する日本語教育を、大学院では異文化間心理学を担当。研究では、外国人労働者や留学生との多文化共生の実現に資する教育プログラムの開発・実践に取り組む。



藤井 航平さん

山口市生まれ。県外の大学へ進学し、外国籍児童への学習支援や学生ボランティアセンターの立ち上げに取り組む。卒業後はNPO支援センターで、ボランティア人材の育成やNPOの設立・運営を支援。2022年に地元へUターンし、子ども第三の居場所「Waku② BASE」の設立・運営に携わる。2026年、やまぐちコミュニティ財団を設立し、代表理事に就任。



原田 尚美さん

山口市生まれ。大学進学とともに関西へ移り住み、2016年に地域おこし協力隊員として地元へUターン。協力隊としての活動を終え、2019年9月に阿東産の徳佐りんごを使ったスパークリングワインの企画・販売事業「やまぐちシードル」を創業。